

四季録

もう10年近く続けている松山東雲女子大学の「釣りゼミ」ですが、当初は私のゼミ単独でした。「釣りガールになろう！」と銘打っていたのを改め、今は

「釣りゼミ」です。松山市三津の岸壁や興居島などを試したこともありますが、近年は北条の鹿島で定着しています。地理的な利便性や何といてもあの3分にも満たない渡船の小さな旅が含まれることが素晴らしいと思います。

先日、2025年の釣りゼミを鹿島で実施しました。雨天が続く時季で、天候は期待できない予報でしたが、参加予定の学生たち各人の予定をすり合わせてようやく見いだした日程でしたので、多少の降雨があっても実施することにしていました。当日になり、明け方は霧雨が残っていたものの、曇りの予報に

なり、これは日焼けを気にしないでよく、願ってもない条件だと喜びましたが、なんと現地に着くと太陽が見え始め、かなりの晴天となりました。

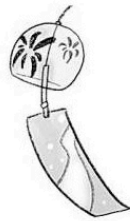
今回は私ともう1人の教員のゼミの合同開催で、学生は8人の参加でした。事前に大学中庭で錘を投げる練習をしていたので、それを思い出しながら

釣りゼミのこと(下)

ら各人が仕掛けを結び付け、大変な騒ぎになりながら餌の虫を付けて「投げ釣り」としました。虫を素手で触るのは無理なようで、ゴム手袋をはめて触ろうとする釣り人としてはまだ超初心者という姿です。虫は針で刺そうとすると小さな牙で抵抗します。「先生！ 虫が牙を出しています！」 どうしたらいいです

か！」などと動揺しながら口々に聞いてきますが、私たちは初めのうちそれを黙々と手伝って針に刺していきます。

こうしてやっと準備が整い、投げる段になって、リールから出る糸の通し方が間違っている、初めからやり直す学生もい



ました。釣りに限らず、物事の事前の段取りや確認の大切さを改めて知る経験となりました。結局この日はじりじりと焼かれる日差しの下、針に虫を付ける作業に苦しみながらも大多数がこれをなんとか克服し、5時間ほど防波堤で釣り、釣果はベ

ラやカサゴなどで30匹以上になりました。現地で魚をさばき、大鍋で野菜とともに煮てみそ汁を作り、小ぶりの魚はつることわたを取って唐揚げにしておいしくいただきました。近くで釣っておられた女性からタイを数匹頂きましたので、魚の三枚おろしができる学生がその技量を存分に発揮していました。

この釣りゼミでは、さっきまで泳いでいた小さな命が食べ物に変わる過程を体験し、学生たちは「命の循環」に無関係ではいけないことを感じてくれたのではないかと期待します。WiFiがない生活など考えられないと言っていた学生を含め、全員が没頭して海での時間を楽しんだ一日となりました。(増本 達彦・松山東雲女子大学教授・彫刻家Drillman asumoto)